

ホルモンバランス検査

TOTAL HORMONE CHECK & CARE

トータルホルモン
チェック&ケア



メディカルインテグレーション

ホルモンバランス検査

TOTAL HORMONE CHECK & CARE

トータルホルモン チェック&ケア とは

近年、ホルモンに関する考え方は、
「老化した結果、ホルモンの値が下がる」のではなく、
「ホルモンの値が低下した結果、老化する」というようになってきています。
そして、各種のホルモンは加齢とともに低下していくことが知られていますが、
老化を防ぎ、健康を維持するためには「ホルモンの値を最適に保つ」という考え方が生まれました。
「老化」とは、簡単に説明すると、「細胞の再生能力の低下」ということになります。
細胞は常に傷つきますが、それを修復・再生しています。
適量のホルモンを補充し、ホルモンの値を最適に保つことで、
「老化」とあきらめていた症状が改善するケースは多くあります。
まずは、現在のあなたのホルモンの状態をきちんと把握し、最適なエイジングケアを始めましょう。

氏名		様	
生年月日	1975-01-01	性別	女性
検査日	2013-01-05		
受診者ID	000007		
検査ID	su01000121		

総合評価

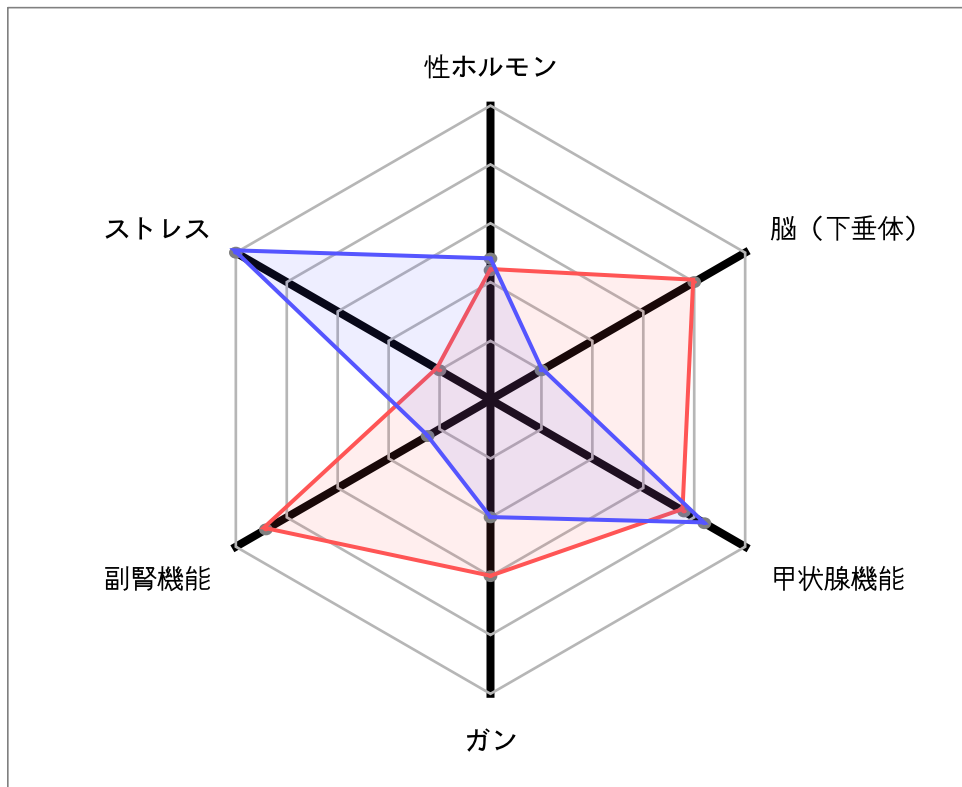
あなたの
総合ポイントは？

前回： 37

77点



ホルモンバランス総合評価レーダーチャート



※評価は1→5と外側に行くほど良好です

性ホルモンの分泌を評価する項目の中に判定1となる項目があります。性ホルモンの分泌に関して追加の検査や治療に関して、医師に相談することをお勧めします。

今回の検査結果からは、下垂体の機能は良好です。

甲状腺の機能を評価する項目の中に判定1となる項目があります。甲状腺の機能に関して追加の検査や治療に関して、医師にご相談することをお勧めします。

乳腺、子宮、卵巣などに関して、今回の検査結果からは異常を認められません。ブロッコリー、芽キャベツ、セロリなどのアブラナ科の食材の摂取は、予防に有効です。

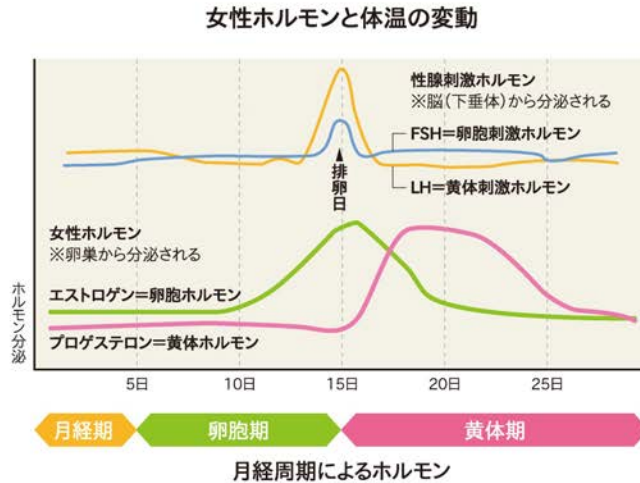
副腎機能はとても良好です。対応力も大変良好な結果です。

ストレスホルモンと抗ストレスホルモンのバランスがとれていません。早急な対応が必要です。

性ホルモン

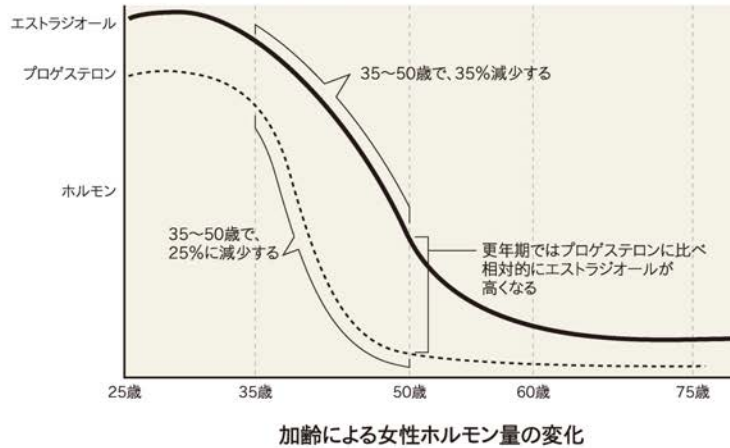
エストラジオール

主に卵巣から分泌される女性ホルモンで、卵胞ホルモンの一つです。テストステロンからも一部生成されます。性周期に関連し、生理から2週間までは低値で、排卵に向けて急激に増加します。女性では性周期との整合性を判断します。男性では年齢によりますが、目標値は22～45です。



プロゲステロン

プロゲステロンは黄体ホルモンと呼ばれ、卵胞ホルモンと同様に性周期で変動します。排卵前から上昇し、3週目くらいでピークとなります。エストラジオールと同様、性周期との整合性を判断します。



テストステロン

男性、女性ともにとっても大切なホルモンです。代謝賦活作用、筋肉や骨の形成促進、動脈硬化予防や、細胞老化や癌化を防ぐとされています。テストステロンの減少により、男性更年期のほか、脳卒中、糖尿病、心筋梗塞、うつ病、認知症などの発症にも関わることが分かってきています。年齢により変化があり、男性では4.00～9.00、女性では0.45～0.90が目標値です。

卵胞刺激ホルモン

FSHとも呼ばれ、脳下垂体から分泌されるホルモンです。女性では卵胞成長に関連するホルモン量が分かれます。男性では精子数のマーカーにもなります。男女とも目標値は 1～10です。

黄体刺激ホルモン

LHとも呼ばれ、脳下垂体から分泌されるホルモンです。女性では排卵や黄体形成に関連するホルモン量が分かれます。男性では男性ホルモンのマーカーになります。男女とも目標値は1～10です。

性ホルモンを評価する検査の結果

項目	測定値	判定	評価コメント
エストラジオール	18.50 pg/mL	1	卵胞成熟度を示すエストラジオール（卵胞ホルモン）の値は前回45.00 pg/mLから今回18.50pg/mL、判定は2から1となっています。今回の値は危険な領域の値を示しています。医師と相談して改善する方法を検討して下さい。本項目の目標値は200.00pg/mLです。
プロゲステロン	0.15 ng/mL	2	排卵機能の指標であるプロゲステロン（黄体ホルモン）の値は前回46.00 ng/mLから今回0.15ng/mL、判定は5から2となっています。今回の値は問診されたあなたの生理周期では要注意な値です。本項目の目標値は0.30 ng/mLです。
テストステロン	9.50 ng/mL	5	テストステロン（男性ホルモン）の値は前回43.00ng/mLから今回9.50 ng/mLと大幅に低下し、判定は5から5と変わりません。今回の値はとても良好です。本項目の目標値は0.40～1.00ng/mLです。
卵胞刺激ホルモン	8.50 mIU/mL	4	脳由来の卵胞成熟度の指標である卵胞刺激ホルモン（FSH）の値は前回47.00mIU/mLから今回8.50mIU/mLと大幅に改善し、判定は2から4と改善しています。今回の値は良好です。本項目の目標値は0.00～10.00mIU/mLです。
黄体刺激ホルモン	9.50 mIU/mL	3	排卵に関連する黄体刺激ホルモンの値は前回48.00mIU/mLから今回9.50 mIU/mLと大幅に改善し、判定は1から3と改善しています。今回の値は基準値の範囲内です。本項目の目標値は0.00～8.00mIU/mLです。

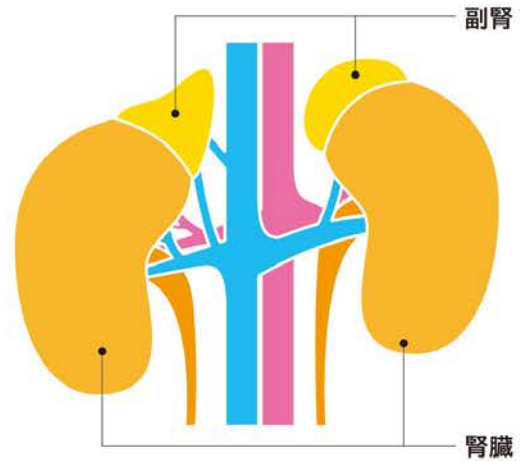
副腎機能とストレス

DHEA-s

副腎皮質から分泌されるステロイドホルモンで、思春期でピークとなり、その後、加齢とともに減少する代表的なホルモンとされています。50種類以上のホルモンに変化するため「ホルモンの母」と呼ばれています。免疫力を高め、感染症、冠動脈疾患、骨粗鬆症などの発症率を下げるだけでなく、抗ストレス作用もあります。年齢と性別により目標値は180~450と変化します。

コルチゾール

ストレスに対応して分泌量がふえるためストレスホルモンとも呼ばれています。血圧上昇、血糖上昇作用、炎症やアレルギー症状を抑えるなどの作用があります。過剰な分泌は、強い酸化作用により体に悪い影響を与えることもあります。目標値は4.0-7.0です。



副腎の働きを評価する検査の結果

項目	測定値	判定	評価コメント
DHEA-s	280.00 μg/dL	4	DHEA（デヒドロエピアンドステロン）の値は前回41.00 μg/dLから今回280.00 μg/dLと大幅に改善し、判定は1から4と改善しています。今回の値は良好です、これを維持していきましょう本項目の目標値は250.00~320.00 μg/dLです。体内年齢の指標です。さらに生活習慣、運動習慣の充実を図ってください。
コルチゾール	2.80 μg/dL	5	ストレスに関連するコルチゾールの値は前回42.00 μg/dLから今回2.80 μg/dLと大幅に低下し、判定は1から5と改善しています。今回の値はとても良好です。本項目の目標値は3.00~7.00 μg/dLです。現状で問題ありません。

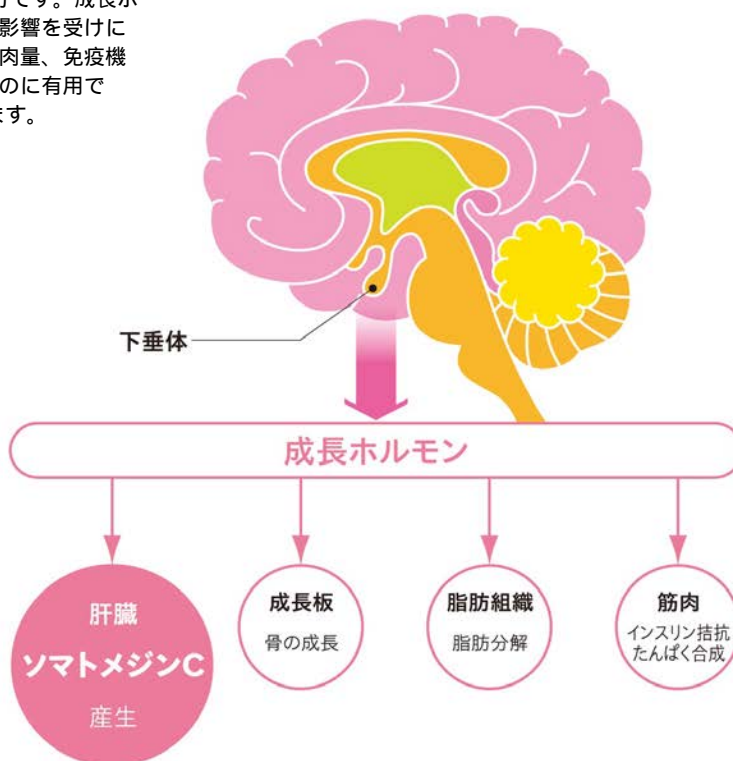
現在のストレスの状況

項目	測定値	判定	評価コメント
ストレス	3.50 null	1	ストレスホルモンと抗ストレスホルモンのバランスがとれていません。早急な対応が必要です。

脳(下垂体)

ソマトメジンC

IGF-1とも呼ばれ、成長ホルモンを評価する代謝成分です。成長ホルモンに比べ、運動、ストレス、睡眠、食事などの影響を受けにくいとされ、日内の変動が少ないとされています。筋肉量、免疫機能、細胞再生関連する成長ホルモンを、評価するのに有用です。年齢と性別により目標値は130~300と変化します。



成長ホルモンを評価する検査の結果

項目	測定値	判定	評価コメント
ソマトメジンC	180.00 ng/mL	4	成長ホルモン値を示すソマトメジンCの値は前回40.00ng/mLから今回180.00ng/mLと大幅に改善し、判定は1から4と改善しています。今回の値は良好です。このまま定期的な負荷運動を続けて現状を保って下さい。本項目の目標値は230.00ng/mLです。筋肉量だけでなく、免疫機能、代謝機能、記憶領域にも関連します。

甲状腺機能

甲状腺ホルモン(FT3)

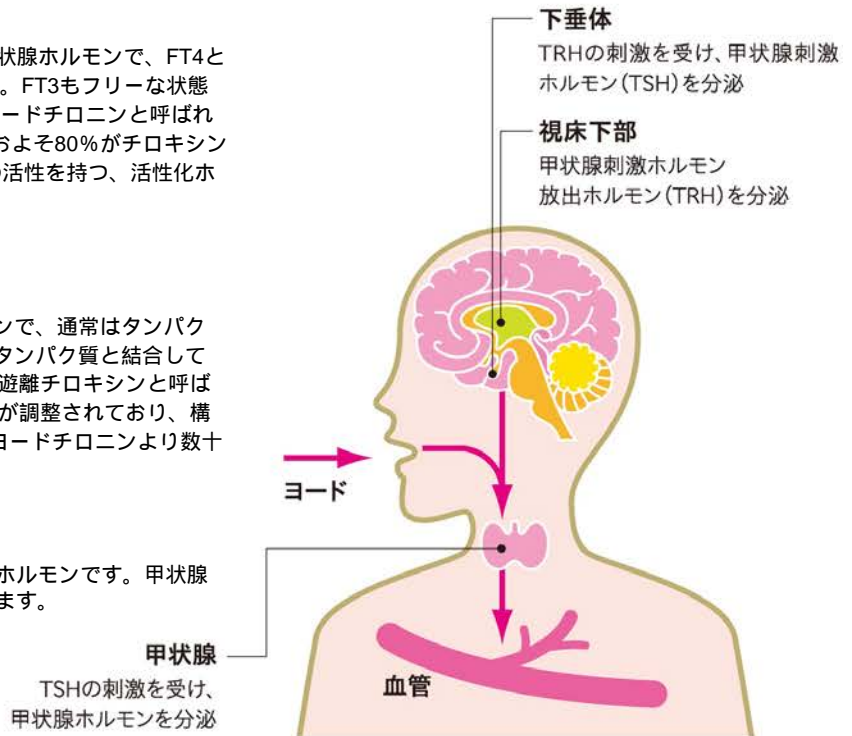
FT3はねトリヨードチロニンと呼ばれる甲状腺ホルモンで、FT4と同様に通常はタンパク質と結合しています。FT3もフリーな状態のトリヨードチロニンであり、遊離トリヨードチロニンと呼ばれています。構造的にはヨウ素を3つ持ち、およそ80%がチロキシンから作られます。チロキシンより4~5倍の活性を持つ、活性化ホルモンです。

甲状腺ホルモン(FT4)

FT4はチロキシンと呼ばれる甲状腺ホルモンで、通常はタンパク質と結合して不活化されています。FT4はタンパク質と結合していないフリーな状態のチロキシンであり、遊離チロキシンと呼ばれています。チロキシンはTSHにより分泌が調整されており、構造的にはヨウ素を4つ持っています。トリヨードチロニンより数十倍分泌量が多いとされています。

甲状腺刺激ホルモン

TSHとも呼ばれ、脳下垂体から分泌されるホルモンです。甲状腺からのホルモン分泌をコントロールしています。



甲状腺の機能を評価する項目

項目	測定値	判定	評価コメント
甲状腺ホルモン (FT3)	3.50 pg/mL	4	同じく別名、遊離トリヨードチロニンと呼ばれる甲状腺ホルモンFT3の値は前回51.00pg/mLから今回3.50pg/mLと大幅に低下し、判定は5から4と下がっています。今回の値は良好です。
甲状腺ホルモン (FT4)	7.60 ng/dL	5	別名、遊離チロキシンと呼ばれる甲状腺ホルモンFT4の値は前回50.00ng/dLから今回7.60ng/dLと大幅に低下し、判定は5から5と変わりません。今回の値はとても良好です。
甲状腺刺激ホルモン	8.50 μIU/mL	1	甲状腺ホルモンのバランスをコントロールする甲状腺刺激ホルモン(TSH)の値は前回49.00 μIU/mLから今回8.50 μIU/mLと大幅に改善し、判定は1から1と変わりません。今回の値は危険な領域の値を示しています。医師と相談して改善する方法を検討して下さい。本項目の目標値は0.20~2.00 μIU/mLです。

ガン

高感度PSA

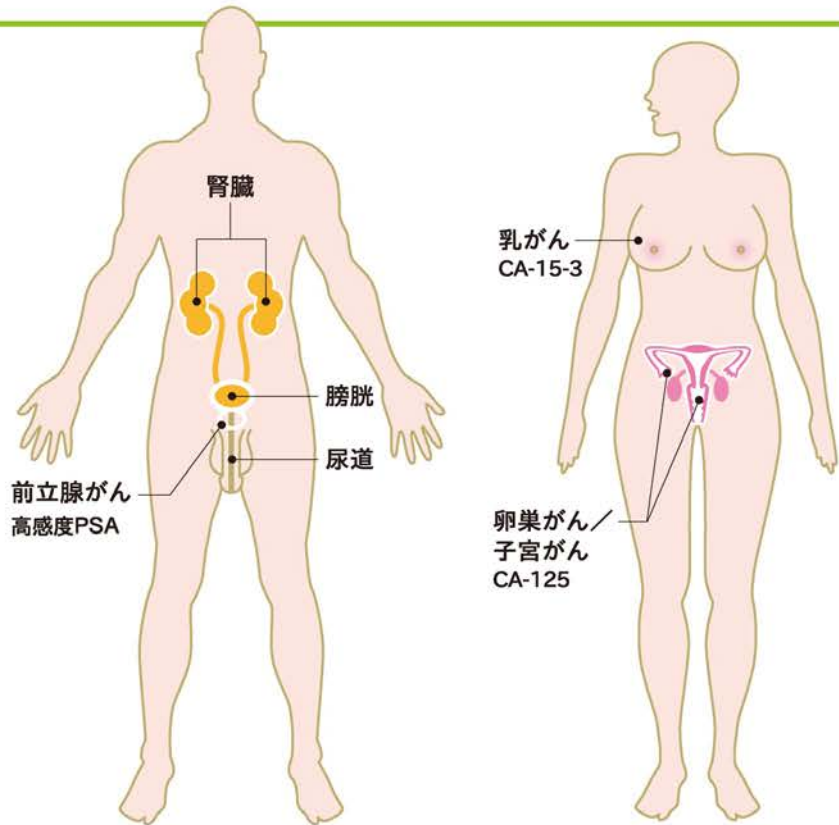
男性のみの検査です。PSAは前立腺から分泌される物質で、前立腺肥大や前立腺癌に関連するマーカーです。4以下が目標値となります。

CA15-3

女性のみの検査です。乳腺組織の炎症、変性そして乳がんの判定に有用なマーカーです。組織の悪性化に伴う細胞破壊によって血中に放出されるため、早期発見より再発・転移の検出に有用とされています。27以下が基準となります。

CA125

女性のみの検査です。卵巣嚢腫、子宮筋腫、子宮癌などにおいて高値を示すとされるマーカーです。35以下が基準となります。



ガンを評価する検査の結果

項目	測定値	判定	評価コメント
高感度PSA	ng/mL		
CA15-3	20.00 U/mL	3	乳腺系の炎症マーカーであるCA15-3の値は前回53.00U/mLから今回20.00U/mLと大幅に改善し、判定は2から3と改善しています。今回の値は基準値の範囲内です。本項目の目標値は0.00～27.00U/mLです。
CA125	28.00 U/mL	3	子宮や卵巣系の炎症マーカーであるCA125の値は前回54.00U/mLから今回28.00U/mLと大幅に改善し、判定は2から3と改善しています。今回の値は基準値の範囲内です。本項目の目標値は0.00～35.00U/mLです。

高感度PSAは男性のみの検査です。

問診結果

項目		項目	
体重	45.00 kg	身長	155.00 cm
BMI		体脂肪率	26.00 %
平均睡眠時間	8.00 時間	体温	35.50 度
脈拍数	66.00 回/分	血圧	最高血圧 60.00 mmHg 最低血圧 105.00 mmHg
性周期	2週間（卵胞期）		
たばこ(現在)	吸わない	たばこ(過去)	吸ったことがない
アルコール	飲まない	平均の摂酒量	飲まない
運動習慣	毎日意識して運動する	運動の程度	スポーツやジムを1時間程度
睡眠の状態	寝付きは良く、熟睡できる	昼間の眠気	あまり感じない
便秘	毎日複数回	下痢の有無	ほとんど無い
DHEAの摂取	飲んだことはある	ビタミン剤の摂取	週3日程度
ミネラルの摂取	飲まない	その他のサプリ	飲まない
顔のほてり、のぼせ	全くない	汗のかきやすさ	あまりかかない
腰や手足の冷え	あまり感じない	イライラ感	あまり感じない
不安感、恐怖感	あまり感じない	ゆううつ感	あまり感じない
意欲	意欲的である	記憶力の低下	あまり感じない
集中力の低下	あまり感じない	めまい、吐き気、耳鳴り	あまりない
皮膚のしわ、シミ	気にならない	皮膚の乾燥	気にならない
足や顔のむくみ	あまりない	抜け毛	気にならない
目の痛み	気にならない	目の疲れ、かすみ	気にならない
目の乾燥	気にならない	胃のはりや痛み	あまり感じない
胃のつかえ、胸焼け	あまり感じない	食欲	ある
息苦しさ、息切れ	あまり感じない	風邪の引きやすさ	あまり感じない
排尿の我慢	できる	尿が出にくさ、キレの悪さ	あまり感じない
残尿感	あまり感じない		

アドバイス

▼



Memo



ホルモンバランス検査

**TOTAL HORMONE
CHECK & CARE**

トータルホルモン
チェック&ケア

